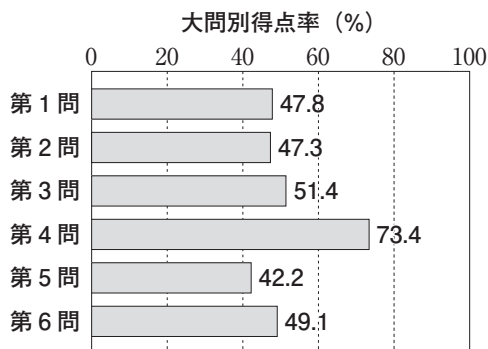
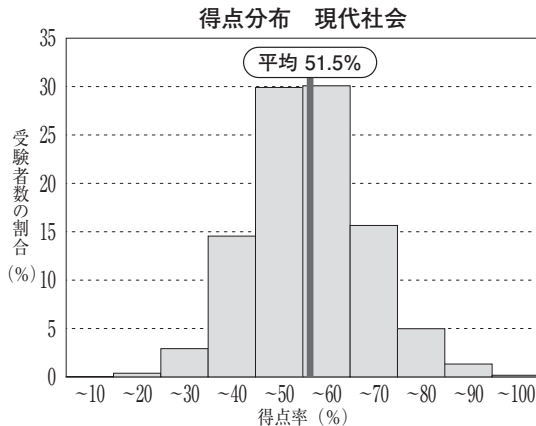


現代社会

知識定着ができていない分野を中心に、復習の徹底を。

I. 全体講評

今回の2017年度「第4回8月センター試験本番レベル模試 現代社会」の平均点は51.5点であった。特に「現代社会」特有の要素が強い第4問「科学技術と生命」については、センター試験の平均点レベルを超える7割以上の得点率となっている。一方、同じく「現代社会」に特徴的な、時事的要素をリード文などで見せつつも伝統文化に関する出題となっている第5問「伝統文化と現代」が、平均得点率を大幅に下回る4割程度の得点率となっているが、この2大問を除くと全般に大問間の得点率の差は少なくなっている。



II. 大問別分析

第1問 地域的経済統合

地域統合や経済事項の正確な理解を。

得点率は47.8%。地域的経済統合を中心に、高校生の多くが苦手としがちな国際分野・経済分野をベースとしたオーソドックスな出題の大問であったが、得点率はこの模試の平均点をやや下回る程度であった。そのなかで、第二次世界大戦後の欧州の地域史についての出題であった問4 [4]、外国為替市場について問うた問5 [5]が2割台の正答率であった。特に問5は正答率が20.8%であり、この大問中最も正答率の低い設問となった。外国人旅行者が増えていることが報道されていることとあわせて、基礎の確認を徹底しておこう。

第2問 地域紛争

国際分野の歴史的事項の学習の徹底を。

得点率は47.3%。時事的要素も強い国際政治分野の出題が中心である大問だが、この模試で2番目に得点率の低い大問となった。なかでも正答率が低かったのは、核不拡散に関する取り組みについての問1 [9]であり、正答率22.1%と、大問中で最も低かった。核不拡散への国際的取り組みはかなりの頻出事項であるため、今一度確認を徹底しておくべきである。

第3問 司法

主要機関の構造を確実に記憶しよう。

得点率は51.4%。高校生が苦手としがちな理論的事項を中心とした出題の大問だが、この模試の平均点とほぼ同レベルの得点率となった。そのなかでも最高裁判所について問うた問5 [18]が正答率23.5%と、この大問中最低の正答率となっている。問5では下級裁判所裁判官の任命権者について尋ねた④の選択率が半数近くとなっており、裁判所という組織の構造を学習できていない受験者が多数であることを示している。司法に限らず国家の主要機関の構造は頻出事項なので、しっかり記憶できていれば本

番で確実に得点できる。

第4問 科学技術と生命

科学技術分野への対策も徹底しよう。

得点率は73.4%。「現代社会」的要素が強い、医療などの「生命」に関する大問であったが、この模試で最も得点率の高い大問となった。この分野に関する受験者の関心の高さが示された結果となっている。そのなかではバイオテクノロジーについて尋ねた問2 [23]の正答率が、64.0%と最も低い。iPS細胞について理解していれば選ばずにすんだ④の選択率が、3割近くに達していた。科学技術分野については、ノーベル賞受賞実績の内容も含めて理解を徹底しておこう。

第5問 伝統文化と現代

倫理分野の理解を正確に。

得点率は42.2%。人工知能(AI)など時事的な要素をリード文に盛り込みつつ、伝統文化について出題する「現代社会」で一定数あるパターンの大問だったが、この模試で最も得点率の低い大問となった。特に日本の伝統思想について尋ねた倫理分野からの出題である問2 [28]が正答率26.6%となっており、この大問中最も正答率の低い大問となっている。①と③が正答率程度、ないしそれ以上の選択率となっているが、①「安藤昌益」、③「二宮尊徳」と、知っている人物名で選んだことが推測される。人物名だけでなく思想内容を把握することができていない、そもそも「倫理」分野の学習がまだできていない受験者が多い事実が推測できる。

第6問 農業

日本の農業政策の推移の確認を。

得点率は49.1%。農業をテーマとしたオーソドックスな出題であったが、平均点とほぼ同レベルの得点率の大問となった。そのなかで日本の農業について問うた問4 [35]が、30.6%と、この大問で最も低い正答率となり、③の選択率が正答率を上回っている。復習することで確実に把握しておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆いま一步正確な理解の徹底を。

今回の模試の結果からは、本番まであと5か月弱

という状況で、すべての分野で本番レベルになっているわけではない受験者が多いことが、当然ではあるが推測される。

「現代社会」は通り一遍の学習である程度得点できる、という感覚では本番で合格レベルの得点を取することは難しい。特に受験者にとってよくニュースで接する事項に関連するようにリード文で見せて、実は伝統文化についての設問となっている第5問「伝統文化と現代」などの出題傾向でも明白だが、ざっと勉強してニュースをチェックしている、というレベルでは太刀打ちできない種類の出題がむしろ主流となってくる以上、科目として復習も含めて正確に理解することで対応するしかないのである。学習していない分野は早急にテキストなどで学習するとともに、1回学習した分野でもテキストを読み直しながら各分野での用語の示す内容を体系的に再確認する努力をして、科目としての学習の完成度を上げる努力をしてみよう。そうすれば今回の模試第1問問5 [5]などで見られた、「事項理解が不完全なため、一見正しそうな選択肢に飛びついてしまう」という解答行動を防げる。

◆次回の模試に向けて。

センター試験は、特に努力の成果がはっきりと出やすい。そしてまんべんなく出題されるため、多くの分野に対応できる力を養成する必要がある。また、センター試験独自の出題形式にも慣れる必要がある。受験者には、自分が間違えた分野の復習は当然として、少なくとも「為替市場」、「核不拡散」、「司法」、「伝統思想」については、次の模試までに再確認を行い、得意分野にする努力が求められる。